

幹部からのメッセージ

Messages from leaders

幹部からのメッセージ
Messages from leaders



沖縄地区税関長 酒井 隆尋

昭和55年初級 行政B

Profile

S55年4月	大阪税関総務部人事課採用
H17年7月	関税局業務課課長補佐
H20年7月	東京税関成田航空貨物出張所総務課長
H22年7月	東京税関総務部税関審査官
H23年7月	関税局業務課課長補佐
H24年7月	関税局関税課(税関調査室)課長補佐
H25年7月	神戸税関ポートアイランド出張所次長
H26年7月	長崎税関八代税関支署長
H27年7月	関税局管理課税関審査管理室長
H29年7月	長崎税関調査部長
H30年7月	長崎税関総務部長
R1年7月	大阪税関業務部長
R2年7月	沖縄地区税関長



横浜税関監視部次長 小笠原 敦子

昭和61年II種 行政

Profile

S61年4月	横浜税関総務部人事課採用
H20年7月	横浜税関監視部統括監視官 (海上コンテナ安全対策(CSI) 部門担当)
H23年7月	横浜税関業務部関税鑑査官
H25年7月	東京税関業務部関税鑑査官
H28年7月	横浜税関総務部税関広報広聴室長
H29年7月	横浜税関業務部首席関税鑑査官
H30年7月	横浜税関総務部首席税関監察官
R1年7月	東京税関業務部総括関税鑑査官
R2年7月	横浜税関監視部次長

:: 貿易の第一線でチャレンジしよう！

このパンフレットを見ている皆さん、税関という職場を知っていましたか？

最近、羽田空港等を舞台にして、税関が実際に摘発した密輸事件をドラマ化したものがテレビで放映されていますので、そのイメージを持っている方が多いと思います。勿論、それも重要な業務ですが、税関にはもっともっと多くの役割があります。

税関は、その名称のとおり、輸出入される貨物に課される関税や消費税などの徴収等を行う「税」に関する仕事と、不正薬物やテロ関連物資、コピー商品などが国内に流入しないように取り締まる「関」に関する仕事を中心に様々な業務を行っています。

近年、政府全体で観光先進国の実現に向けた取り組みを進めており、私が勤務する沖縄地区税関が管轄している沖縄県では、年間500隻以上の国際クルーズ船が入港しています。また、那覇空港から入国する外国人旅客は、令和元年は180万人を超えています。税関では、地域経済発展のため、入国旅客に対して迅速、かつ、「おもてなし」の心を持って接する一方で、不正薬物等の流入を阻止するため厳格な対応が必要です。特に最近、東京オリンピック・パラリンピックに伴うテロ対策が重要になっていますので、迅速と適正の両立に全力で取り組んでいます。

このように「関」に当たる業務のほか、「税」に関する業務として、例えば、関税や消費税等を適正かつ公平に徴収するため、税額の計算の基礎となる課税価格や税率を検証する業務や、輸入者を訪問して輸入した貨物の関税等が正しく納付されていたかについて調査を行う税務調査的な業務などを行っています。このほか、世界各国の税関との間で情報交換や技術協力を行うなど、国際的な業務もあります。

私は、大阪税関に採用され、その後、財務省関税局に出身し、輸出入手続に関して経済産業省や農林水産省などの関係省庁との協議・調整等を担当したほか、東京・神戸・長崎税関でも勤務しました。このパンフレットでは、各税関の先輩たちが自分の担当業務を紹介していますが、これら以外にも多種多様な業務があります。今、やりたいことが見つからなくても、色んな業務を経験していく中で、皆さんの知的好奇心をくすぐり、やりがいを感じる業務に必ず出会えると思います。

税関は、明治5年(1872年)に発足しましたので、令和4年(2022年)には150周年を迎えます。貿易立国の我が国において、貿易の第一線にある税関の役割は極めて重要になっています。

このような税関で皆さんの可能性にチャレンジしてみませんか！希望と好奇心に満ちた皆さんをお待ちしています。

:: よりよい未来社会のために

皆さんの中には海外旅行の経験があり、税関のイメージは空港での入国の際の携帯品検査と考える方が多いと思いますが、もし、新聞やTV等でコンテナ貨物に隠匿されたキロ単位の不正薬物の摘発を思い浮かべていただけたとしたら、広報担当経験者の私としてはうれしい限りです。

我が国における不正薬物全体の押収量は令和2年においておよそ1.9トンとなり、5年連続で1トンを超え、過去3番目となる押収量を記録しており、残念ながら我が国への不正薬物の流入は極めて深刻な状況となっています。このような流れを水際で阻止するのが、国家公務員の中でも私たち税関の役割となっています。中でも私の所属する横浜税関での押収量は1,265kgと過去最高を記録し、横浜税関史上初めて1トンを超えている状況です。そしてそのほとんどが海上貨物による薬物の大口密輸入となっています。

税関は、管轄区によって9つに分かれており、横浜税関はその1つになります。横浜税関監視部は、主として海を守る組織であるということが特徴となっており、このような不正薬物などの年々巧妙化する密輸の手口に対し、監視艇による海上巡回やパトロール車による港湾施設の巡回をして、不審物の発見や不審者の動きなどに注視し、常時港湾地区を監視しています。さらに、不審貨物を発見した際には、先端技術を駆使した様々な検査機器を使用して水際の流入阻止のために厳格な取締りを

行っている国民の安心・安全に大きく貢献しています。

税関の組織には監視部以外に、総務部、業務部、調査部があり相互に連携し税関の3つの使命である「安全・安心な社会の実現」、「適正かつ公平な関税等の徴収」、「貿易円滑化の推進」に取り組んでいます。また、税関は他省庁が管理する法令の確認も行っていることから、他省庁とも連携して取締りにあたっているため、とても多岐にわたる分野の業務を担い、それ故に様々な研修も整備されています。関心のある研修への参加もできて、知識を深めながら専門性を高めていくことが可能となっています。

私は税関に採用され、客船対応の旅具や審理部門そして広報など幅広く経験し、異動することになった業務への挑戦をしてきたと思っていますが、そのたびに、諸先輩の指導や時には後輩の方々に支えられてきたのも確かです。私たち税関というチームワークを重んじる職場だからサポートも確かなのだと感じております。さらに今ではワークライフバランスを掲げ、多様な職員一人一人を大切にしながら高い効率を上げることも私たちの目指す姿として組織理念に掲げています。

このような業務や環境に一人でも多くの方が興味を持ち、希望ある未来社会のために、ともに税関を支えていただけたらありがたいと思います。無限大の可能性をぜひこれからの社会のために生かしていただきたいです。

